

平成19年度北海道ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理実施計画

平成19年3月30日 決定

北海道並びに青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県及び長野県（以下「道及び15県」という。）のポリ塩化ビフェニル廃棄物（以下「PCB廃棄物」という。）の処理を確実かつ適正に実施するため、「北海道PCB廃棄物処理事業におけるPCB廃棄物の搬入者等に対する指導等の方針（平成19年1月決定）」（以下「指導等方針」という。）3（2）及び「北海道ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理計画（平成17年3月変更）」第2章2（3）アに基づき、次のとおり、平成19年度北海道ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理実施計画を定めます。

1 処理対象PCB廃棄物

北海道PCB廃棄物処理事業においては、次のPCB廃棄物を処理します。

トランス類	PCBを使用した高圧トランス、低圧トランス、リアクトル、計器用変成器、放電コイル及び整流器で10kg以上のもの
コンデンサ類	PCBを使用した高圧コンデンサ、低圧コンデンサ及びサージアブソーバで10kg以上のもの
PCB油類	廃PCB及びPCBを含む廃油

2 平成19年度処理計画

平成19年度については、「北海道ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理計画」に基づき、重点地域である北海道胆振支庁管内において収集運搬、処理を行うことを基本として、保管事業者及び使用事業者の理解のもと計画的かつ効率的に進めるものとし、処理量（施設の試運転に使用するPCB廃棄物は含みません。）は次のとおりとします。

- (1) トランス類 64台
- (2) コンデンサ類 807台
- (3) PCB油類 44本

※ PCB油類については、ドラム缶（重量150kg）の本数によりその量を示しています。

なお、日本環境安全事業株式会社（以下「JESCO」という。）は、計画的かつ効率的な処理を行うため、処理に当たって、多量保管事業者（PCB廃棄物等を30台以上保管する事業者）を、ベースロードとして取扱うものとし、

また、処理施設の合理的な運転上必要な場合など次に掲げるものについては、重点地域以外からの収集運搬、処理ができるものとし、

- (1) 広域協議会で調整し、緊急に処理を行う必要があると認められたとき。
- (2) 合理的な運転を行うため、JESCOから搬入の要請があったとき。

3 適正処理を推進するための方策

PCB廃棄物の確実かつ適正な収集運搬、処理については、指導等方針及び北海道ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理計画に定めるもののほか、次のとおり取扱うものとします。

(1) PCB廃棄物の収集運搬

道及び15県は指導等方針に基づき、JESCO等と協力し、PCB廃棄物の収集運搬に携わる全ての者に対する指導等を行うなどして処理施設への安全かつ計画的な搬入を確保することとします。

また、収集運搬中の事故など緊急時における連絡体制については、別途定めることとします。

(2) PCB廃棄物処理に関する普及啓発の実施

保管事業者等に対して処理の必要性や計画的な使用の中止などについて、期限内の処分と処理施設への安全で効率的な輸送が行われるよう、必要な情報の提供に努めるとともに、日本環境安全事業(株)が設置する「PCB処理情報センター」において、処理施設の処理状況、環境モニタリング情報や15県の取組などに関する情報を発信します。

(3) 処理対象外PCB廃棄物

安定器などのPCB汚染物や、いわゆる低濃度汚染物などの処理については、引き続き、早期にその処理体制を確立するよう国に要望していくこととします。

(4) 試運転

処理施設の安全な運転に向けて、平成19年3月から9月まで、処理施設の試運転を予定しており、その概要については、別紙「北海道PCB廃棄物処理施設の試運転・収集運搬計画について」のとおりです。

(5) その他

このほか、PCB廃棄物の処理に当たって必要な事項等については、北海道PCB廃棄物処理事業に係る広域協議会等において協議、調整して定めるものとします。

北海道PCB廃棄物処理施設の試運転・収集運搬計画について

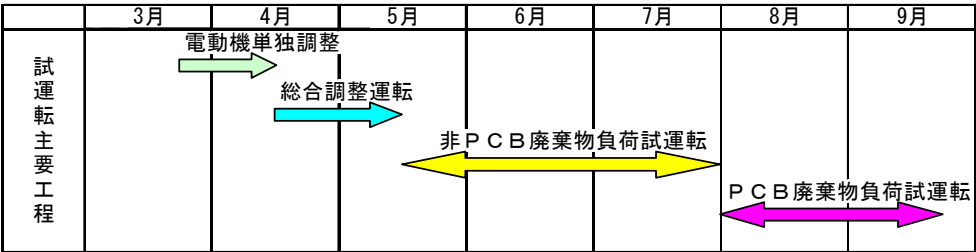
1 目的

北海道PCB廃棄物処理施設（以下「処理施設」という。）について、その保証性能と保管事業場から処理施設までのPCB廃棄物の安全な収集運搬及び緊急時における対応について確認することなどを目的として、日本環境安全事業（株）が安全、確実にを行うものです。

2 試運転の概要

- ・ この試運転を通じて、処理施設の性能保証事項である①プラント設備能力、②環境保全性能、③作業環境性能を確認
- ・ 処理施設の運転業務を受託する会社が、処理施設を円滑に運転できるように実施
- ・ 試運転期間は、平成19年3月から9月までの約6か月間の予定

2.1 試運転の工程



2.1.1 電動機単独調整

各装置、機器の電動機結線などを確認

2.1.2 総合調整運転

機器のシーケンス制御^{*1}の作動確認、機器調整運転を実施

2.1.3 非PCB廃棄物（PCBを含まないトランス等）負荷試運転

非PCB廃棄物を使用した設備毎の機能確認、設備調整及びプラント全体の機能並びに緊急停止機能^{*2}を確認

2.1.4 PCB廃棄物負荷試験

PCB廃棄物を使用したプラント全体の機能確認と処理対象物の種類に応じた前処理、液処理の運転条件及び性能の確認、卒業判定方法^{*3}及び迅速分析^{*4}体制の確立、一連の継続的な運転による性能を確認

* 1 シーケンス制御（Sequential Control）とは「あらかじめ定められた順序または手続きに従って制御の各段階を逐次進めていく制御」のこと
 * 2 処理施設が安全に停止できる機能
 * 3 PCB廃棄物が確実に処理されたことを確認する試験方法
 * 4 運転管理状況や工程管理の必要な排気モニタリングを迅速に行うためのPCBの試験方法

3 試運転に使用するPCB廃棄物等の確保及び収集運搬

3.1 試運転で使用する非PCB廃棄物及びPCB廃棄物の確保

3.1.1 非PCB廃棄物

非PCB廃棄物は、中古のトランス 18 台及びコンデンサ 155 台を購入して使用

3.1.2 PCB廃棄物

PCB廃棄物は、室蘭市内などの保管事業者からトランス 21 台、コンデンサ 226 台、PCB油（ドラム缶）101 本を譲り受けて使用

3.2 試運転に使用するPCB廃棄物の収集運搬

PCB廃棄物の収集運搬は、特別管理産業廃棄物収集運搬業の許可を受け、かつ、日本環境安全事業(株)から入門許可を受けた収集運搬業者の中から選定

搬入経路は、操業開始後と同じ経路を使用（国道36号又は37号を經由して仲町ランプから処理施設に搬入）

収集運搬車両の運行状況はGPSシステムにより把握して安全を確認

4 緊急時対応

処理施設の試運転時及びPCB廃棄物の収集運搬時に、緊急事態を想定した対応訓練や通報訓練を実施

5 運転会社の作業員に対する教育訓練

試運転に先立って、平成18年10月から運転会社の作業員に対する教育訓練を開始しており、処理事業の基本思想から操作技術の習得に至るまで5段階分けて、平成19年9月まで教育訓練を実施

さらに、他の事業所における現地研修を平成18年12月、平成19年2月及び3月（予定）に行うなど、安全確実な処理体制を構築

6 その他

この試運転結果などをもとに、廃棄物処理法に基づくPCB廃棄物処理施設の使用前検査や特別管理産業廃棄物処分業の許可申請を行い、道の許可を受けた後、本年10月に操業開始予定